私の人生を変えた一冊

みなさんは運命の1冊に
出会ったことがありますか？
人との出会いと同じように、
本との出会いも一期一会。
毎日たくさんの本と出会っている
図書館司書のみなさんに
人生を変えた1冊を聞いてみました。

森見 登美彦 著
夜は短し歩けよ乙女
KADOKAWA／角川文庫

大学時代に出会い、大変感銘を受けた本です。黒髪の乙女の素晴らしさと怠惰で不毛な人生の素晴らしさについて教えてくれます。幻の至宝と言われる薔薇色のキャンパスライフを想像している学生におすすめです。この本に出会えなかったら私の性格は今とは随分異なるものだったでしょう。

司書
一ノ瀬　賢太郎

乙一 著
夏と花火と私の死体
集英社文庫

「変な作者名だな」そう思って手に取ったのが16歳の時。読み進めるうちに、展開のスリル感に引き込まれました。なにより衝撃的だったのが16歳でこの作品を書いたという事。同じ16歳でも見ているもの、考えていることを「物語」として表現できる人がいることに衝撃を受け新しい価値観が芽生えるきっかけになった1冊です。

司書
樋渡　陽香

寺村 輝夫 作／永井 郁子 絵
わかったさんのマドレーヌ
あかね書房

子どものころ『わかったさんシリーズ』を夢中になって読んだことを今でも覚えています。不思議な世界をわかったさんと一緒に冒険しているような気持になり、わくわくしながら読んでいました。私にとって本を好きになったきっかけであり、「本を読む楽しさ」を知った1冊です。

司書
森田　祥

ロバート・マンチ 作
乃木 りか 訳／梅田 俊作 絵
『ラブ・ユー・フォーエバー』 岩崎書店

わが子への永遠の愛を伝える絵本です。幼い頃に読んで以来思い出すことも無くなっていたのですが、武雄市図書館に勤めていたある日、表紙を見た瞬間「これ知ってる！」と強烈に思い出した経験が。日頃お子様と絵本を読まれている皆さん、大人になっても心には残っているもの。これからもぜひ続けてあげてくださいね。

司書
山﨑　夏織

ヘルメ・ハイネ 作・絵／天沼 春樹 訳
きみがしらないひみつの三人
徳間書店

私が司書になってすぐの頃、読み聞かせボランティアの方に紹介されたこの絵本。当時小さかった姪に読んであげながら、「この子にも素敵な味方がもう側にいるんだな」と心が温かくなりました。子どもたちだけでなく、絵本を読んであげる大人の方にも、絵本の魅力を伝えられる司書になりたいと思わせてくれた大事な1冊です。

司書
緒方 千恵

2017年（平成29年）
●10月1日
こども図書館　開館

2018年（平成30年）
●8月24日
こども図書館
来館者30万人達成

2019年（平成31年）
●2月16日
リニューアル後
来館者500万人達成

市長から未来へのメッセージ

市民一人ひとりが輝ける場を目指して

「本を借りる場所」から「心地よい空間」、そして「まちのエンジン」へ

武雄市図書館・歴史資料館は、20年前、「市民文化の森構想」を策定し、「エポカル武雄」として、「市民に親しまれ愛される図書館・歴史資料館」を目指し誕生しました。

そして、平成25年には、株式会社カルチュア・コンビニエンス・クラブ（以下CCC）と組み、リニューアルオープン。これまで利用していなかった人も利用したくなる心地いい空間の創出を実現してきました。

リニューアル後は、図書館としての幅が広がり、本を借りるだけでなく、勉強や仕事、待ち合わせやカフェ利用など、様々な目的で多くの市民の皆さまに来館していただいています。

さらには、市民が利用する教育施設・文化施設という枠にとどまらず、その先進性と心地よい空間を目的に全国、海外からも人が訪れる施設としても全国的に注目を浴びています。

館内には、コーヒーやBGMでくつろぎながら読書を楽しめるカフェスペースや、静かに集中できる閲覧・学習スペースもあるなど、誰にとっても居心地の良い環境を提供しています。これがたくさんの人が訪れ、リピートする理由ではないかと思っています。

平成29年には、「子育てしやすいまち」を目指し、こども図書館がオープン。毎日開催しているボランティアや図書館スタッフによる読み聞かせも子育て世代から好評で、3世代で利用する姿もみられ、世代を超えた交流が生まれています。

このように、これまでの図書館20年の歩みは、市民の皆さまの暮らしの豊かさにも寄与し、市外から訪れる人も増え、市全域の活性化にもつながっている、いわば「まちのエンジン」になったと感じています。

「本」と「人」をつなぐ、そして「人」と「人」をつなげる

これからの図書館は、さらに「コミュニティ」「交流」の場を目指します。

今でも図書館では、篆刻講座や英会話、朝ヨガなど、市民自らが講師となり市民が受講する講座が多数開催されています。

このような取組みを更に発展させ、武雄市民一人ひとりが得意技を活かし、市民の皆さまに還元していただく自己実現の場、自己表現の場のステージとして活用していきたいと考えています。

そして、そこに新たに人が集まり、知らない人同士が出会い交流する場になる。市民一人ひとりがまちづくりの主役となり、そこで生まれた出会いが新たな活力を生む、そんな循環を創っていきたいと思います。

みなさんと共に、さらなる深化を…

もともと、図書館は本と人をつなぐ「知の拠点」でしたが、これからは市民一人ひとりが持っている知恵をシェアできるという意味での「知の拠点」としての深化。

「利用する」から「参加交流」へ。そして「自己実現」の場へ。

さらに深化を遂げて、市民の皆さまにとって、なくてはならない場へ、市民の皆さま、CCCの皆さんと一緒になって創っていきたい。キラキラと輝く「人」が増えることが武雄の未来を創ることだと思っています。

これからも
市民のみなさんと
一緒に…。